

環境総合研究所

情報発信について

令和8年3月16日
環境総合研究所
事業推進担当

研究所が目指す姿

科学的知見に基づく環境行政を推進するために
多様な主体と連携し、調査・研究、**情報発信**を
行う研究所

※環境総合研究所調査・研究等業務計画から抜粋



実施の目的

1. 専門的な情報を分かりやすく発信し、環境に関心を持ってもらおうことで、市民の行動変容につなげる。
2. 科学的根拠に基づく環境対策を実施するため蓄積している各種環境データを活用し発信することで、市内外の環境対策を促進する。



情報発信の手法

1. 環境セミナーや各種イベントの運営
2. SNSの活用
3. デジタルアーカイブの運用
4. 視察の受入



広報検討チーム

■所内職員 9 名で構成

■月 1 回定例ミーティング

➡ メンバーの斬新なアイデアで、これまでの情報発信を**抜本的に見直し**



【パンフレット】



【YouTube動画】



デジタルアーカイブ

1. 環境セミナーや各種イベントの運営

2. SNSの活用

3. デジタルアーカイブの運用

4. 視察の受入

令和7年11月から**掲載資料の公募**を開始

廃棄物・下水関連の資料の拡充に向け、庁内関係部署と調整



情報発信の手法

1. 環境セミナーや各種イベントの運営
2. SNSの活用
3. デジタルアーカイブの運用
- 4. 視察の受入（今年度リニューアル）**

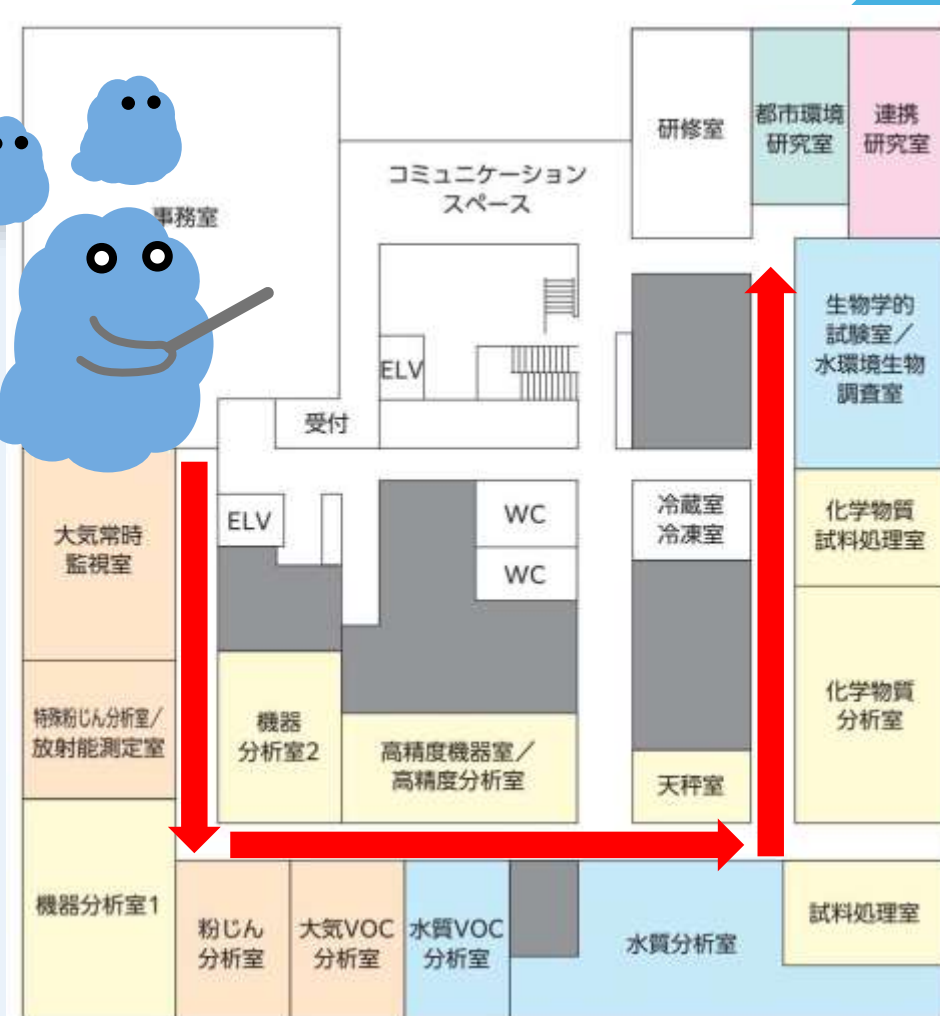


このあと詳細をご説明します

視察の受入



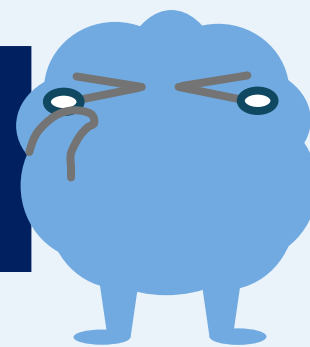
昨年度までは、職員
1名で所内を案内



課題

1. 声が届く範囲や通路の幅などの理由から、受け入れ可能人数に限界がある（1回につき10名程度）。
2. 一般事務職の職員が対応していたため、業務や機器に関する専門的な説明ができない。

参加者にとって満足度の低いものとなっているのではないか…

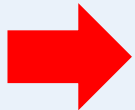


新たな受入方法の模索

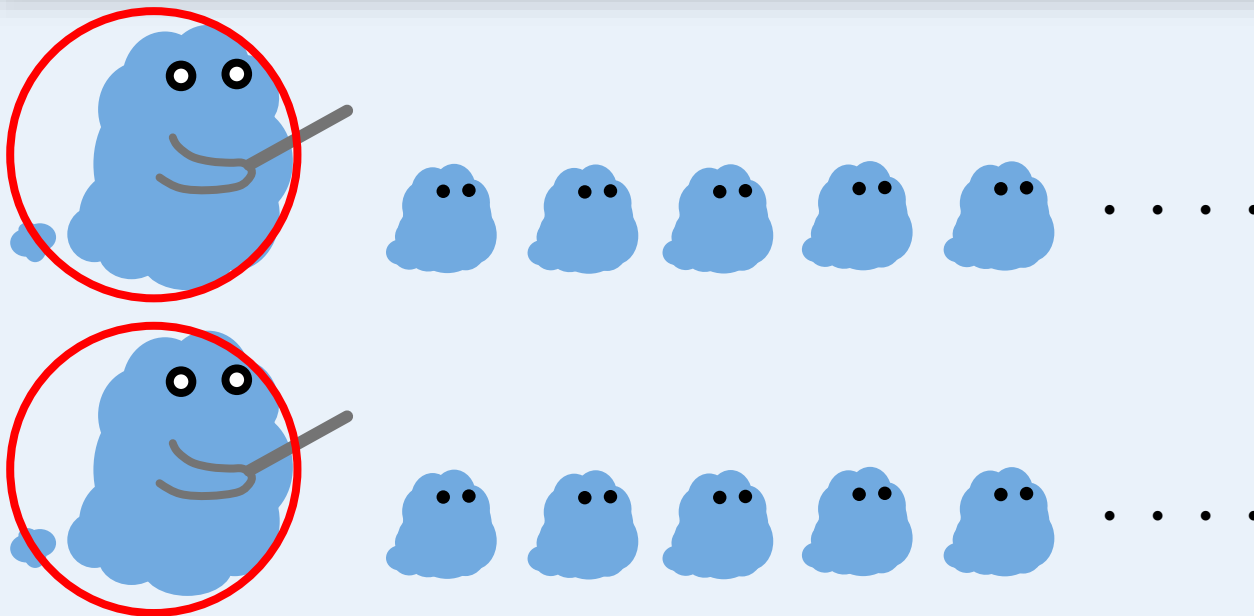
1. 声が届く範囲や通路の幅などの理由から、受け入れ可能人数に限界がある（1回につき10名程度）。

 **案内する職員の人数を増やせば、受け入れ可能人数を増やせるか…？**

2. 一般事務職の職員が対応するため、業務や機器に関する専門的な説明ができない。

 **実際に業務に携わっている職員が実演を交えた説明を行うことで、よりリアリティのある専門的な話ができるのではないか…？**

今年度の取組



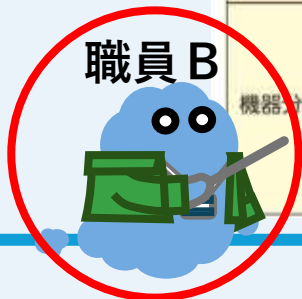
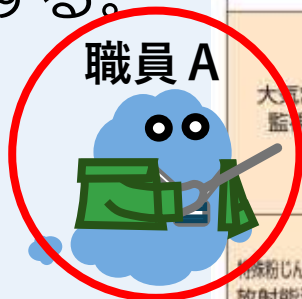
1回に受け入れられる
人数が**最大40名**程度
に！

- ① 受け入れる人数に応じて、適宜、案内する職員の人数を増やして対応する。

受入方法の変更

- ② 実際にその業務に携わっている職員が実演を交えて説明する。

より詳しい説明が可能に！



今年度の取組

【実施方法】

案内の職員がツアー形式でアテンドしながら4か所を回る。

大気常時監視室



機器分析室



水質分析室



生物調査室



受入方法の変更

【実施方法】

ツアーが何組かある場合は、スタート位置をずらして回る。

水質分析室
↓
生物調査室
↓
大気常時監視室
↓
機器分析室



効果とまとめ

① 参加者の満足度の向上

参加者の声

研究員が直接説明してくれたのがよかった

説明が分かりやすく、きちんと準備されていて硬い内容の割には面白かった

先日の貴所見学が、アンケートで生徒に大変好評でした（市立中学校教諭）

丁寧にわかりやすく対応してくださり、生徒たちもとても喜んでいました（市立小学校教諭）

効果とまとめ

② 見学者数の増加

令和6年度…受入5回、316名（学校3校）

令和7年度…受入10回、340名（学校6校）

リピーターも！

視察の受入を通じて環境総合研究所の業務を知ってもらうことが、情報発信のひとつのツールとなっている。

効果とまとめ

③ 個々のプレゼン能力の向上

日常の業務を、相手の年齢に応じて分かりやすく説明することで、プレゼン能力の向上が見込まれる。各担当が試行錯誤し、回数を重ねるごとに着実にスキルアップしている。



効果とまとめ

④ 職員の働きがいの向上

見学者の反応を直接見ることができ、**職員の働きがいの向上**にもつながった。特に環境対策部の職員は、対市民・対事業者＝苦情・指導という経験が多く、ポジティブな言葉をかけられることが少ないため、見学者の**好意的な反応がプラスの効果**につながっている。



おわりに

「行動変容」は、まず環境に関心を持ってもらうところから始まります。

環境総合研究所の業務を知ってもらうことで、環境に関心を持ってもらいたいという願いを込めて、日々情報を発信しています。

ご清聴ありがとうございました



Xはこちら



YouTubeはこちら